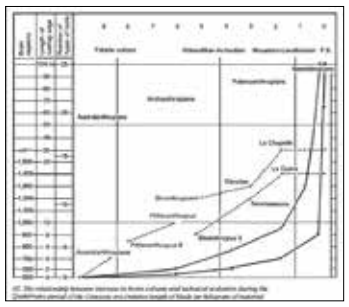
MIRA TUKU

未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

CASE: 57 石 ―社会的文脈が生み出す価値―



アンドレ・ルロワ=グーランによる、石器の進化のスピードを表す図。時代を追うごとに、より先端が薄く細い複雑な形になる。 出典：Leroi-Gourhan1993, p.138(http://www.costech.utc.fr/CahiersCOSTECH/spip.php?article18)

紀元前9000年ごろにヨーロッパに出現した磨製石器。日本では、3~4万年前に磨製石器が登場し、世界最古のものとなっている。3~4万年前、日本の文化は世界最高峰の技術水準にあった。
ⓒDidier Descouens (CC BY-SA 4.0)

POINT!

物や技術がありきではなく、先行する文脈に対して具体的な関わりを持つことが、社会が受け入れ広げていく価値を生み出す。

地球は、内核、外核、下部マントル、上部マントル、地殻の5つの層からなり、最も地表に近い地殻は、玄武岩などのケイ酸塩の火成岩を多く持つ海洋地殻と花崗岩などのケイ酸塩岩石を多く持つ大陸地殻の2つに分かれます。

石は、人類が誕生するはるか前から存在してきました。地球最古の石は42億8000万年前のものがカナダで発見されています。太陽系では、地球のほかにも金星や水星、火星が岩石を主とした惑星として存在しています。

260万年前、人類は石器を手に入れ、牙や爪の代わりとして最初に調理器具を、そして狩りのための武器を手に入れました。ヒトは、もともとは700万年前に森を追い出された弱い猿の一群でしたが、石器を手に入れたことによってより多くの食料を手にすることに成功し、その得られたカロリーによって徐々に脳の体積を増やしていくことで、より高い知能と認知を得てきました。フランスの先史学者で文化人類学者のアンドレ・ルロワ＝グーランは、石器が現代のコンピューターのように時代を追うごとに進化のスピードを高めながらより複雑な形状になっていくことを示しています。石器は、当時の世界最先端の技術であり、世界中でより優れた石器をつくるためのトライアンドエラーが行われていました。

一方で、現在石は誰からもわざわざ拾われない立場にいます。河原の石は誰に採取されることもなく、今日もそのまま河原に置かれています。260万年前に、人類の新たな道を切り開いた石器の材料としての石は、現代では特に価値のない石として存在しています。そして、その石は42億年前から存在し、石器時代にも存在し、現代にも存在しています。石が役に立った時代と役に立たない時代の間に、石自体の変化はありません。変わったのは、石ではなく、石が求められ活きるという社会的な文脈の有無です。

価値は、そのものではなく社会的な文脈との組み合わせによって生まれます。ヨーゼフ・シュンペンターは1912年に著書『経済理論の発展』の中で、イノベーションを新結合ということばで捉えています。このイノベーションの新結合は、物や技術がありきではなく、先行する文脈に対して具体的な関わりを持つことが、社会が受け入れ広げていく価値を生み出します。文脈が価値を生み出してくれます。

にしむら・ゆうや●NPO法人ミラツク代表理事。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have（すでに在る未来の可能性を実現する）をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
http://emerging-future.org

sk2002_P105ミラツク.indd 115 2019/12/17 14:03